

刊夕 日九廿月九

常磐每日新聞

定価 一月五拾五圓 郵費五圓
 廣告料 五圓以上 二割 一割 五分 五分
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社
 電話 六三〇番
 印刷 株式会社

偉人といかも。

H T 生

幸瀨土王國フレデリック
 ゼ・グレートはあれ程長く
 戦争を續けても國債を募ら
 ないし、國税も増さなかつ
 た。宮中での費用は最低程
 度まで切り詰められたのに
 耕作とか牧畜とかの奨励に
 は補助金を吝まれない。そ
 れに誤樂としては吹笛の一
 點張り、食卓には甘藍と
 鹽肉の煮込みさへあつたら
 別に何等のお望みもなかつ
 た。アンネ女王の侍女を娶
 つて急に名を揚げたマール
 ボロ公は和蘭陀及獨逸の兩
 軍から推され佛國と兵を交
 へ、凱旋後埃太利の首領と
 成り一時は飛ぶ鳥も落ちる

良い藪は
 一升に約
 二百五十
 から二百八十粒位ある。
 一疋の蠶の吐く糸は良い
 のになると一千米もある
 程の全盛だつたが、苟も陣
 頭に立てば假令一兵卒とは
 云へ、ビールに満を引き牛
 肉を腹が裂けるまで喰ふべ
 き權利を有つものなりとの
 勅諭を賜つた。
 一時阿弗利加領土の總督
 として英名を馳せた羅馬の

グイテツリウス帝は、墮落
 と暴食でも名高かつたが、
 兵士からは割合に慕はれた
 此の方は一度に食物を喉ま
 で來る程召し上り、即座に
 侍醫が吐劑を差上げ更に御
 満足の行くまで食卓からお
 離れにならなかつた。ウオ
 ータールーで一敗血に塗れ
 密かに米國まで遁れて再舉

明日の献立

- 【朝】味噌汁ー里芋 ねぎ
- 【晝】半べん付やき
- 【晚】コロッケ トマトン
- ー ス 酢のもの 赤
- 貝 うど



風景

(新俳句)
 舊作よりー
 木津 茂太郎
 ○鬼あざみといふ花か草
 中にたゞ一本
 ○なみはしぶきをわれら
 四人に(勿來二句)
 ○月が一つさりの夏の夜
 はをとめらとある
 ○藝者のすがた墓あひに
 見えてゐて
 ○櫻落葉、犬が來たり青
 いバラソルが來たり
 ○腹ふくれてもう寝るば
 かり蟬がをちこち
 ○山がつからなる人に會ひ
 馬に會ひして
 ○あたくかい壁の冬木の
 かげは
 ○電信柱さびしい子供が
 立つてゐるのだ
 ○しぐれの音のひとりゐ
 る
 ○うらがれ子供やつてく
 るふたありで
 ○木枯しにみんな歸して
 木枯し吹く

耳鼻咽喉科専門

平田町 (電話六九一番)
山内醫院
 醫學士 山内亨吉
 病室完備
 自炊便有

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會
 平田町九六
 電話二七番

是非!

御融通には御利用下さい
 萬事便利な御相談に應じ
 ます

三井質店

平四・電六〇六番

玉屋洋品店
 平町四通電話六五六番

●店員募集
 年齢十五、六才、希望者は至急來店あれ

秋!!! 配はの秋!!!

ドライア……訪問……には
 是非! 素晴らしく乗心地のよい
 セリザワのニューカーを!

御用命下さい「電395番」

平・三 芹澤タクシ

味覺の秋を樂しめる

香氣のよい 松茸料理種々
 多少に不拘出前迅速

仕出し 専門 錦水

電四五四

紙子障明透

- ▼本品は室内用、室外用の二種あり
 - ▼室内用は張方從來の通り生熟糊にてよろし
 - ▼室外用は特に室外用ノリにて張ればよろし
 - ▼本品は硝子、セルロイド以上の優秀點を具
 - 備す
 - ▼雨と風との神様が兩神一緒に暴れても室外
 - 用は平氣なり
 - ▼現品は普通陣子紙巾にし(長さ九メートル)
- ◎定 價
 ▼室内用 六十錢
 ▼室外用 八十錢
- ◎室外用ノリ 一罐 二十錢
- 平町四丁目

夕伊勢屋 阿部商店

電話四五番
 ●賣弘め中粗景手拭一本呈上

生糸高が響き 俄然爾騰る

今回の開市以来

最高のレコードを破る

四倉商市場は昨廿八日より俄然出廻盛んとなり八百七十二貫三百八十匁の取引数にて相場も横濱市場の生糸高響き最高廿八圓、最低廿一圓、卅廿六圓と云ふ晩秋開市以来高値のレコードを破り前日に比し一躍二圓六十銭高となり来月四、五日頃の出廻最盛期頃は卅圓臺に達するものと見られ養蠶家を喜ばして居る

甲種合格の 抽籤が決定

平町入業者廿名

平町今年度壯丁甲種合格者中左記二十名は福島聯隊區で抽籤の結果入營と決定した旨今二十九日平町役場に通報あつた

- ▲歩兵 鎌田大友正良
- 三丁目久野銀三 紺屋町
- 柏原信一 材木町渡邊賢治
- 銀治町小野正 月見
- 町白土勝白 四丁目佐藤
- 甲二郎 紺屋町佐々木兼吉
- 新川町吉田勝彌
- 砲兵 鎌田鈴木正男
- 砲兵 田町篠原善治
- 七軒
- 町田卷正三
- ▲工兵 胡摩
- 澤佐々木道典
- ▲鐵道兵
- 八幡小路田村重一
- 大王
- 町有坂正道
- ▲電信兵 彌
- 宜町渡邊虎雄
- 研町猪狩
- 久吉
- ▲飛行兵 田町清野
- 芳男
- ▲輜重特務兵 久保
- 田虎孝
- 古鍛冶高志

平局大擧

郡山へ出發

既報明州日郡山市の縣下二等局野球大會に出場のため明日自動車で出發する平局員は白石局長以下選手應援團等七十名に近く應援團も統制の訓練やら小旗、中旗、大旗の應援旗も百に餘る物々しきである

平商正副級長

既報平商の正副級長を左の如く決定任命式は明後日の十月一日朝會の際行ふ由

- (一ノ甲) 秋元博 村上信
- (一ノ乙) 賀澤清 松崎一
- 吉(二ノ甲) 齊藤重雄 會
- 田長太郎(二ノ乙) 松島清

無競争の 税調選舉

政友派四名公認

その顔ぶれと補充員

所得税調査委員の候補者は下馬評にのぼる顔ぶれ十指以上を數へ大混戦を豫想されて居たが其後時日の切迫と共に漸く目鼻が付き民政派にては既に吉村大平の兩氏公認候補と銘打つて名乗りを擧げたるに呼應し野崎滿藏氏また單騎馬を陣頭に進め餘衛難の政友派にては最高幹部が八方に奔走して

- 正員 加藤 丈夫 豊田 美孝
- 安島 久 鈴木 林平
- 鈴木喜太郎 多田井笑次郎
- 鈴木邦三郎 岡田 千藏
- 補充員 沈撫に努めた結果漸く公認四氏に止め辛ふじて無競争の平穩無事なるを得たが同派の正員及び補充員は左の如くである

學校倒壊の 適切な豫防

平町各校が研究

別項けふの平町各小學校事務協議會では今回大阪方面の風水害に依る小學校倒壊に鑑み是に對する豫防法等に就いて研究する筈

校庭擴張

敷地買收協議

平町では來月一日午前十時から第三小學校増築臨時委員會を招集校庭擴張敷地買收に就き協議する

稚鮎の養殖獎勵

琵琶湖産に優るとも劣らぬ

水産試験場の研究

小名濱町縣水産試験場では從來本縣で養殖する琵琶湖産小鮎が頗る高價で且つ輸送し來る途中に斃死するものが多いのに鑑みこの対策として石城

海岸に多数生殖する

海産稚鮎の養殖を獎勵すべく去る五月及び六月の二回に亘つて會津大川發電所堰堤上流に四萬尾を試験的に

秋刀魚が救ひの神

四倉港の漁業不振對策

今年度の石城各濱漁業界は近年にない不振を呈したが殊に築港の未完成による四倉は最悪、江名及び久之濱よりの挾撃を受けて慘憺たる状態を呈し春、夏職を通じて十五萬圓足らずの漁獲高に過ぎず例年二十萬圓を突破するのに比較すれば五萬圓以上の大減收であるが同漁業組合ではこの赤字を秋刀魚漁に依つて償はんとして稻荷丸(四十一ト)外四艘の

磐女體育小會

では本日放課後各學年對抗走巾跳及び籠球技の小會を催した

第三排球選手

第三小學校で暑中休暇以來係訓練が指導しつゝあつた排球選手は十一月四日の第三區排球大會の前哨戦として今後盛に他流試合に出場するとメンバー左の如くである

- (男子) 今田實 竹村弘實
- 笠原正 吉田義雄 武田
- 省三 橋本明 山本六郎
- 小松伸太 笠原弘本 阿彌孝悦(女子) 白土貞子

社告

編輯部員一名

學力中等學校程度以上 右至急採用す

希望者來社あれ

常磐毎日新聞社

平職業紹介所報告

回人を求める方

- △豆腐賣子 十九一五十才
- 月十圓位
- △女中 十六一四十才位
- 尋卒 月二圓五十錢位
- △女中 二十才前後 尋卒
- 月五六圓位
- △旅館女中 十七一四〇才
- 迄 尋卒 二圓五十錢
- △女中 二十才前後 尋卒
- 月五六圓位
- 回職を求める方
- △鍛冶工見習 十九才 尋卒
- △自動車助手 廿二才 高卒
- △海産雜夫 二十三才 高卒
- △商店員 二十九才 高卒
- △製板雜夫 廿三才 高卒
- △蠶業教師 廿四才

- 張文字 平澤ウタ 玉木
- 勝子 佐藤カツ 關根セ
- キ 龜田チヅル 酒井貞
- 子

平町人事

回死 亡

- △二丁目二六 明智喜一氏
- (三一)
- △長橋町八 平井要三郎氏
- (六三)

博覽會の計劃

愈よ機熟して 委員を擧げ大綱を審議

花時の一偉觀

櫻花時の平町に、異觀を添へて外客吸引の方途に資する博覽會の計劃——先年平町に於ては伊東一氏の起案に基き博覽會を開催し地方稀れに見る盛觀を呈したが、更に明春の花季をトして満蒙と國防を主とした時局博覽會を開催して櫻花の平町に一大光彩を添へ前回にも増した人氣を煽つて「景氣・平の春」を實現せんとの計畫熟し昨日の町會に於て正副議長外

高橋龜松 馬目雅治 吉田寅之輔 猪狩觀徳 佐々木龍若
の五氏を委員に擧げ伊東一氏を加へて大綱を決定する事となり
來月一日 午後一時から平町役場會議室に第一回の委員會を開くが敷地は大町の町有地(前産業博第一會場跡)となるらしく併せて全國土産品展覧會や郡下物産展覧會等も開催する等にて早くも地方民から期待されるに至つた

耳寄りな...

求人訪れ

炭礦と製糸から 夫々大量な申込み

好間村萩原炭礦業部は軍需工業の活潑化に伴つて躍進を續けてゐるが愈よ需要期に入つたので増産を斷行すべく採炭夫の充實を圖ることになり平職業紹介所に五十人の大量求人を申込み来たので同所でもこの耳寄りな申込みに大喜びで求職者開拓に大奮となつてゐる

點呼不參

科料十圓に 内郷村大字代五一錫行商伊藤義雄(三)は第一補充兵役陸軍輜重兵特務兵として去月十九日本籍地山形縣の簡

一千圓を標準に

寄附金を取纏む 平町の近畿地方復興援助

近畿地方の風水害救助に關する平町の各區長各種團體協議は本日午前十一時より町會議事堂に於て青沼町長を議長とし協議を進めた結果金一千圓を標準とし來月十日迄に各區長が分擔夫々寄附金を纏める事となつた

弓道大會

來月七日に 平町俱樂部主催秋季弓道大會は來月七日午前九時から城山弓道場が開く

藝妓逃ぐ

六百圓踏倒し 湯本町宇三園藝妓屋つたや抱藝妓さくよ事佐藤みつ

明日の天気

今夜は北西の風 薄曇り明日は北東の風晴曇半す

今晚の部

後六〇〇 子供の時間 歌のお稽古(古)道子 後六二五 英語講座(二)の(三)久野湖郎 後七三〇 少年少女の夕 後八三〇 琵琶川中島西

明日の部

前九、一〇 榮養料理研究會 榮養研究所 前九、二〇 時事解説信夫 淳平博士 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告

寶國寺人佛式

飯野村北白土寶國寺の入佛式は明三十日假かに執行される

磐炭の相撲會

磐城炭礦健康保險組合主催相撲大會は明三十日午前七時から淺野記念會館土俵で催す

歸らぬ女房

内郷村宮字金坂六土工佐藤徳松内縁の妻根本みえ(三)は去る七日徳松の雇主から給料三十圓を受取つたまま、無断家出したが同人の従姉である神谷村上神容須藤テル方に潜伏してゐることが判つたので歸宅を促したがラチが明かないので憤慨した徳松は二十九日平署に説諭方を願出た、みえは去る昭和七年十月一子ハツ(二)を連れて徳松と同棲生活を営んでゐたものであると

内田老兎 懲役七年

求刑通りに 既報内郷村大字小島字作田木村廣吉氏方居住群馬縣生れ日雇前科十三犯内田鶴吉(七)に對する強盜傷人事件の判決公判は本日午前十一時より平支部に於て中島才判長係關口、香西兩判事陪席清田檢事立會の下に開廷されたが才判長より求刑通り懲役七年を言渡された

自轉車に食糧品

神谷青年團の東京見物 裁判所たより

神谷村青年團八十五名は來月四日二泊三日の行程で茨城、東京方面に産業視察旅行を行ふことになつたが同行は食糧品を携帶大部分を自轉車で走破すると

草野校運動會

草野小學校では來る十月十三日同校々庭に於て全校兒童の秋季陸上運動會を催すと

前九、三〇 (子供、時間) 齊唱と合唱 JOKK唱歌隊 前一〇、〇〇 宗教講話 「八風吹けども動せず」 高階 瑞山 前一〇、四〇 講演「秋田藩の洋書」 安藤 和風 前一一、一〇 講演「寫實と美術」 東北帝法文學部 助教授 兒島喜久雄 前一一、五〇 野球試合實況(六大學野球リーグ戦) (神宮より中継) 青年浪花節の午後(野球)

無い場合放送) 後六、〇〇 (子供の時間) 童話劇「チヨビ動物語」 (六回) BK子供サークル 後七、三〇 日曜特輯新作 演藝 ラヂオ風景「喧嘩の研究」 古川綠波外大勢 後八、〇〇 義太夫 「明烏六花あけぼの」 竹本小土佐 後八、四〇 落語 「既火事」 柳亭 左樂 後九、〇〇 ラヂオ風景 「奥の細道に聴く」(白河より隨筆まで) 編輯並演出HK放送部

實訊問の上檢事より懲役十ヶ月を求刑され判事より即決求刑通り言渡された
△平町字堀ノ内生れ目下住居不定大和田寅吉(三)が去月十六日午後九時頃内郷村大字宮字金坂カフエーフラガにて飲酒中居合せた同村鎌田武雄と口論の末ヤスリ棒其他を以て同人を毆打し全治 三週間を要する傷害を與へた事件の公判は本日午前九時半より平支部判事所に於て關口判事係清田檢事立會の下に開廷檢事より懲役二ヶ月を求刑されたが判事より即決罰金五十圓を言渡された

△安達郡二本松生れ目下住居不定無職前科八犯佐久間吉之助(五)が去る十九日双葉郡浪江町旅館白木屋事鈴木トウさん方に投宿、宿泊料一圓八十錢を踏倒し逃走した外同夜同町飲食店鎌田ミヨさん方に於て三圓三十錢の無銭飲食した詐欺事件の公判は本日午前十一時より平支部判事所に於て關口判事係清田檢事立會の下に開廷檢事より懲役二年の求刑あり判事より即決求刑通り言渡された

源五郎吉の比叢

(警務殿上院及上院)

田邊南龍(作)
山本芙蓉(書)

一四六

權八大阪で自訴(一)

「イヤ氣に入らないのぢやアねえ、枝の仁兵衛の仇討に行くのを俺が一人行かぬえなんてそんな事を云ふ俺ぢやアねえが、何分親分があゝいふ人だから骨折損のくたびれ儲け、お前達に頼んで行つたのに餘計な事をして呉れたと口へ出しちやア云はねえでも、夫が爲に親分の身體を重くするやうな事があつちやアお氣の毒な話ぢやアねえか、殊には仁兵衛もまた葬式をして今日が二日目だ、そんなに急いで事をしねえでも先の相手が逃げるんぢやアねえ、四谷番町静町と屋敷は處々に隔たつて居ても皆んな徳川の旗本だ、さうして見たら水野十郎左衛門一人を目的にするんぢやアねえ水野は固より近藤、兼松、池田川添、旗本奴等は大抵目星い處は寝むらしちまうんだそれに仁兵衛の四十九日の日迄に遣らうぢやアねえか」

「それは市郎兵衛、少し氣が長いぢやアねえか、四十九日まで……」
「イヤそのくれえ日がなくつちやアいかねえ、といふのは、大阪に行つて元

締の處へ知らせ、直ぐに歸つて来て貰はなけりやアなるまい」
「成程それもさうだ」
そこで、一同が相談の上事細かに今度の一件を書いて天王寺屋氣附幡院院長兵

「嘩の五郎吉を始め一同に急に用事が出来たから立戻ると話をすると、夫ちやア元締を送りながら我々も江戸見物に行かうといふから折角の志しだが少々江戸に面倒な事が起つて、それが爲に歸るやうな始末だから今お前さん方が来て下さつても何にもお構ひ申す事が出来ない、其の用事が片附けば直ぐに手紙を出すから、さうしたら皆さんで揃つて江戸見物に来て貰ひたい」



衛の許へ知らせました、長兵衛が其の手紙を見て大層仁兵衛の死を嘆き、早速返書を書き、これ又急飛脚で直ぐに歸るから夫まで何にもしてはならないと書き送りました、そこで朝比奈藤兵衛や帆柱の伊之助、小喧

「ぢやアさういふ事にしやう」
時に左官の源太郎に向つて
「江戸へ歸るかどうするか」
と尋ねると江戸へ歸つても見込みがない、大阪も住

馴れたから當分ぬたいといふ、それなら俺が宜いやうにしてやらうと朝比奈藤兵衛に向ひまして
「御迷惑ながら源太は當地にゐたいといふからお前さんの盆をやつて面倒を見てやつて貰ひたい」
「ア宜いとも、俺で済む事なら預かりませう」
と承知をして呉れたから源太も大きに喜びました、サア長兵衛が歸るといふので天王寺屋、平野屋から澤山の贈り物をした長兵衛は夫れを斷り立振舞を立派にして、其の儘江戸へ立戻つて了りました、其の後へ權八が天王寺屋に長兵衛の居るといふ噂を聞いて尋ねて参りました處、既に立つた後だといふので大層力を落し、モウ此の世では遇ふ事が出来なかつと思ひましたたが豫て目黒の隨川師にも再會を約してあるし、是非一度江戸へ歸りたい、江戸へ行けば長兵衛にも遇へるし小紫にも遇へるとは云へお尋ね者の此の權八江戸へ長の旅路を無事に續ける事思ひもよらん。

有給外務員數名募集

一、廿五才以上 經驗の有無を不問男女數名
一、固定給の外旅費支給す
御希望の方は履歷書持參來談を乞ふ
(明治十四年創立)
(保險の開祖)

明治生命保險株式會社

平 事務所

所長 小野 勝康
平・仲町

黒小倉通學服賣出

一望秋色

さあ御召替です
あかやには皆様の御満足の得る品が何時も澤山揃へて御座います

小學生用(長ズボン付)

A.....90.00
B.....1.10.00
特製品.....2.35.00

中學生用

特製6號.....3.50.00
御注文(特上).....6.30.00

あかや洋服店 平三 208

かまぼこ製造

今年も例年通り

お徳出

相はじめました何卒御用命の程!

平町一丁目

お惣菜用
さつま揚
吉原揚

不孫寅

電話一四一番

夜間診療

胃腸科 内科 皮膚科 性病科 花柳病科

門 專

院醫科性病胃腸村松

(番七〇一電町南町平)

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町一六(電話七二〇番)